ホームページ　http://www.nihonkanpoukyokai.com/
E-mail　j.kampo@jeans.ocn.ne.jp

日本漢方協会通信—①　２０２３年９月

私の病状とそれを通して経験したこと，我流の食事療法など

会員　庄子　昇

私の唯一の取り柄は何事も継続して行うことだったのです。しかし新型コロナウイルスの流行と私自身の体調，さらに認知症の妻と一緒に暮らすようになって日本漢方協会の講座に通うのが途絶えて現在に至っています。

1 年半も前に突然肝機能を示す血液データが上がりましたが，自覚症状がなかったので消化器の専門医に診てもらうことなく過ごしていました。今年の 5 月初めに妻がデイサービスに通っていた施設でコロナが発生し，妻が感染し私も感染しました。私の場合は 38.5℃の高熱と喉の激しい痛みでした。のどは飲み物を飲もうとするとむせてしまうほどでした。試しに芍薬甘草湯でうがいしたら運良くだいぶ楽になりました。のどの痛みは急遽駆風解毒湯加桔梗石膏の煎じ薬を作って飲んだらかなり軽くなりました。熱の方は葛根湯合小柴胡湯合桔梗石膏を用いて抑えました。

コロナ感染のせいか，あるいは肝臓がさらに悪化したせいか，舌の感覚は正常ではなくなり食欲もなくなりました。それでも無理して食べていたのですが，体重は減る一方で，かかりつけ医に徳島日赤の消化器内科を紹介してもらいました。CT や MRI の結果，肝臓内の胆管が詰まって胆汁の分泌が悪いということで，詰まりを通す処置をしてもらいました。詰まりの原因は腫瘍でそれも悪性と判明しました。手術は難しく抗癌剤治療が残されていたわけですが，ただでさえ入院で体力が落ちているのに，副作用がきつい治療を受けたくなかったので経過観察ということにしました。

入院前は下肢，特に足のむくみがありましたが，処置した翌朝はむくみはなくなり，舌の感覚も正常に近くなりました。驚いたことに普段はそれほど咳はひどくなかったのですが，人と電話で話したりすると頻繁に咳が出ていたのに，それもすっかりなくなりました。「五臓六腑皆人をして咳せしむ，ひとり肺のみにあらざるなり」ということを身をもって実感しました。2 週間の入院の 3 日後，今まで経験のないほどの悪寒戦慄があり毛布にくるまってもブルブルと震えていました。それが日に複数回襲ってきました。なすすべもじっと堪えていました。3 日目になってこれがマラリアに罹った時の症状の瘧というものか，それなら急性感染症の一種だから柴葛解肌湯が効くのではないかと考えて，葛根湯合小柴胡湯合桔梗石膏を飲んだら悪寒戦慄は起こらなくなりました。再診時に主治医に悪寒戦慄のことを伝えたら，それはよくある胆管炎であると言われて抗生物質を処方してくれました。よくあることなら予め処方してくれたらと恨めしく思いましたが，小心者の私は黙っていました。一時お腹の状態がよくなくて，食事中にトイレにいきたくなりました。以前松田邦夫先生の講義の中で，食事中にトイレに行くような行儀の悪い人には小建中湯という話を思い出し，小建中湯を飲んだところほどなくよくなりました。漢方薬を勉強していて本当によかったと痛感しました。

今は全くの素人ながら食事療法を行っています。ご飯は白米から玄米にしました。美味しくはないのですが，抗癌剤の副作用で食欲不振や吐き気，口内炎になったことを考えると我慢できます。玄米餅も入手できるのでそれも利用しています。おかずは野菜中心と植物タンパク質，それに魚です。がん細胞はブドウ糖を栄養として増殖するという考えに基づいて，糖質をなるべく摂らないようにしています。好物のお菓子も果物も一切口にしていません。「がんは瘀血だ」という考え方があるので駆瘀血作用のある漢方薬を中心に服用しています。このようなやり方で果たしてどのくらい元気で生き延びられるのか分かりません。私の唯一の取り柄である継続して実行を最期まで成し遂げたいと思っています。